

●地域とともに●

明日にむかって



2023年9月15日発行

発行 社会福祉法人陽光会 編集 「明日にむかって」編集委員会
 住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町5-3 ☎ 03-3959-1675 (陽光会法人本部)
 社会福祉法人陽光会 HP <https://youkou-kai.com>



社会福祉法人陽光会
新理事長 徳留人美

保護者のみなさんの働く環境も今まで以上に多様化しています。毎日のように出張のある方、リモートでも出社以上に厳しい労働内容の方の話も聞きます。子どもたちの生きる環境についても、親として何ができるか、発達不安、仕事と子育て、不安なことを挙げたらきりがありません。

この度、永く尽力されてきた田辺弘子さんの後任として、理事長に就任いたしました。
 74年前、戦後間もないころ、大谷口公園あたりでスタートした陽光保育園。いつの時代もここで子どもたちがのびのびと元気に育つ保育園が変わらずあるのは、この地域にお住まいの皆さん、後援会の皆さんのお力添えのおかげです。ご協力に深く感謝いたします。

誰もが心地よい居場所づくりをめざして

社会福祉法人陽光会 新理事長
徳留人美

徳留人美

社会福祉法人陽光会の理事長が替わりました。この場をかりてご挨拶申し上げます。今後ともご支援・ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

続 子どもの世界

～陽光保育園～

2 歳児 — 救急隊出動！

突如始まる救急隊ごっこ。室内で遊んでいるとき、いきなり床に寝転がり、「たすけてー」とSくん。するとすぐさま救急車が出動。友だちに囲まれて「注射うつよ」「ワセリンもってくるね」と手当てをしてもらいます。すると今度は手当てしていた子どもたちが寝転がり、自ら絵本の間に指を挟み、「たすけてー」と救助を待つ姿がかわいいです。

2 歳児 — 合いの手は完璧！

“はたらくるま”にハマっている子どもたち。室内遊びでそれぞれ好きな遊びをしていますが、一人の子が「はたらくるま」を歌いはじめると、すぐさま合いの手。「パトロールカー♪」などの掛け声は完璧です。

2 歳児 — 看護師さんに甘えたい

看護師さんがクラスに顔を出すと、今まで元気に遊んでいた子どもたちが、急におでこに手を当てたり、以前ケガをした場所をおさえて見せにいきます。「いたかったね」「早くよくなるといいね」と言われると、うれしそうにまた遊びはじめる姿がなんととも微笑ましい。

疑問に思ったことは、共有していけたらうれしく思います。どうぞご意見、ご相談ください。
 陽光会が今まで大事にしてきたように、保育の要望や施設への意見、子育ての悩み、どんなことにも耳を傾け、みなさんと一緒に悩んで考えて、ともに子育てしていきたいらと思ひます。大人も子どもも自分を表現できる心地よい居場所になれたら幸いです。

命と健康を守ることを大前提にすえて、その時代の子育ての大変さを共有して保育内容を探り、違う意見も見直すきっかけにして柔軟に育ちあえる場所となるよう力を尽くしたいと考えます。
 子どもたちが自分のことが好きで、他の誰かも好きで、明日が期待できる毎日をつくることができるところを、一歩一歩みなさんと築いていけたらと思ひます。理事・評議員のみなさんや、職員とともに進めます。

風 100号……凄いとだと思ひ。新米の父親として陽光保育園と出会った50年近く前、献身的に子どもたちに向き合う保育士さんと、それを包み込むように手を繋ぐ父母会や後援会の熱さに触れた。子育ても共働きも一人で背負うものじゃない、悩みも失敗もみんな分分かち合えばこんなに楽しいものだと思ひました。
 濃密な10年を卒業した後、職場や地域に自分なりの陽光を創ることが生きたことになった。新聞折込みで届く『明日にむかって』は、無沙汰してるけどちゃんと陽光やってくるか？と、いつもたたくさんの元気をくれた。
 そんな陽光の輪にもう一回飛び込んで12年。「陽光を地域の子育て拠点に」という願ひの大切さと難しさを、若い人たちと一緒に噛み締める毎日を送っている。時代も世代も変わったようでも変わらない。明日に向かって……ひとすじの道が見える。(S・Y)

これからも「明日にむかって」

社会福祉法人陽光会 前理事長

田辺弘子



社会福祉法人陽光会
前理事長 田辺弘子

『明日にむかって』80号で理事長就任のご挨拶をし、「老齢にムチ打ってがんばります」と約束してから7年が経ってしまいました。この間、練馬区立桜台第二保育園の受託にはじまり、社会福祉法

人制度の変更、令和3年には板橋区立板橋第十小学校あいきっず、昨年は練馬区立北町保育園のプロポーザルがあり、再受託できました。コロナ禍では、子どもたち・職員・保護者も大変な苦勞のなかで、行事等も助け合いながら乗り切ってきました。しかし、地域や後援会の皆さんとのふれ合いの場でもあるバザー等ができなかったことは非常に残念でした。7年前は、待機児童が多く保育園がたりない状況でしたが、こ

数年は、コロナ禍や少子化等により、定員未充足が起こり、園の運営が財政的にきびしい状況になってきています。保護者の方々にとっては、3〜5歳児と0〜2歳児（住民税非課税世帯）、第2子以降の保育料無償化が実現しました。しかし、保育士の配置基準や処遇の改善等はまだまだ道半ば、改善のために声を上げていますが、実現されていません。今後も安心して保育できる環境整備の実現を求め、運動していかねばなりません。

子どもを中心に74年という保育の歴史をもつ陽光会。これからも地域の人々とともに「明日にむかって」いきますので、応援よろしくお願いたします。

陽光会に期待すること

陽光会保育理念の進化とさらなる園の拡大を

金子幹子

北町保育園が社会福祉法人陽光会に業務委託されて13年が経ちました。昨年プロポーザルを終え、北町保育園は今後も陽光会の保育を受けることができます。当初、運営業務委託にはさまざま

な不安がありました。事業者選定時、当時の陽光保育園高田園長から陽光の保育理念のすばらしさと保育に対する熱い想いをお聞きし、北町保育園父母の会は「ぜひ陽光会に」と声を上げたものです。今回、受託を希望する他団体（法

人）もいたなかでの更新は、これまでの陽光保育のすばらしさの現われと感じています。「温故知新」。陽光保育の理念を進化させながら、「もう一園、あと一園、もっと」と陽光の保育を受けられる子ども、世帯を増やして行ってほしい。子ども、保護者、地域の方、保育士、すべてを育てていけるその力を最大限に發揮して行ってほしい。そう願います。

子育て時期は、大切に濃密な時間です。子どもと保護者のそのような大事な時期に、陽光の保育理念と活動がとても影響しています。そしてそれに携わり見守る保育士の先生たちにも。陽光会の保育士になることで人生が変わって

いっているのではないかと思えます。未来を紡ぐかけがえのない力である若き保育士たちがよりよい環境におかれ、陽光保育を広めてくださることを願います。ひとりでも多くの人、ひとつでも多くの事に関わっていただき、光をもたらし風を吹き込む保育を進化させながら、発展し続けていってください。『明日にむかって』もその情報発信源として、また園とのつながりをもたらし便りとして号を重ねられますよう。

（陽光会評議委員・陽光会後援会会長・元北町保育園父母の会会長）

温かいアットホームな雰囲気をいつまでも

陽光会に期待すること

ほんさん

わが家では6年越しに、今年4月から陽光保育園の入園ができませんでした。長男が0歳のときはご縁がなく、このたび入園することができ、とてもうれしい日々です。

私が陽光会に期待していることは、子どもの根っこの部分を育ててほしいということです。変化が激しく、価値観が多様な現代において、自分らしく、自信をもって生き抜く力が求められていると感じています。

心から安心できる環境で、思いっきり遊び、自然のなかで五感を育むこと、お友だちとの関わりをなかで協力しながらやり抜くことは、幼少期において代えがたい時間だと思っています。陽光保育園はこの期待に十分に答えてくださっていますし、子どもたちを見守ってくださる様子には心から安心して

います。長女は家庭では、リズム遊び、お当番のこと、クラスでの出来事を楽しそうに話してくれて、充実している様子が伝わってきます。温かいアットホームな雰囲気の陽光保育園、私はこの雰囲気がいつまでも変わらないことを願っています。

（陽光保育園保護者）

コロナ禍後、またいつものように

陽光会に期待すること

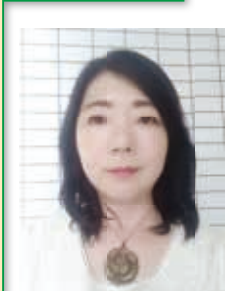
長谷川誉子

陽光会との出会いは長男が3歳児のとき、桜台第二保育園の委託先候補の会議でのことでした。それから約10年、中学1年生の長男、小学1年生の次男は卒園し、三男は3歳児になりました。今では、保育士の夫もお散歩先の公園で会うと保育園同士で交流するなど、家族でお世話になっています。

私にとって、保育園時代のママ友だちや保育士さんたちは今でも良き相談相手です。先日も、長男を知る保育士さんに、反抗期の悩みを相談しました。戦後の青空保育からスタートした陽光会には、子どもを中心として保護者と保育園が輪になれる関係を大切に温かさがあり、卒園しても交流をつづけていきたいと感じる良さがあります。

ここ数年は、コロナ禍により保育園との交流も保護者同士の交流もなかなかできず、本来の陽光会の良さが伝わりにくかったかもしれませんが、これからまた、顔を合わせた交流が増えていくことで、温かな陽光会の良さを皆さんに伝えていっていただきたいです。

（桜台第二保育園卒園児・3歳児保護者）



金子幹子さん

子どもが大好き。だから保育士に

桜台第二保育園保育士 末次千里



私は、保育士になる前は事務の仕事をしていました。もともと子どもが大好きで保育士になりたいという思いはありましたが、手先が不器用だから無理だと考えていました。しかし、通りすがりに泣いている子どもがいると、なんとかしたい」と思い、レストランで大きい声を出している子どもがいて「なんで親は何もしないんだ」と怒っている客がいると、「子育ては大変なんだよ」と教えるうちに私のなかで、「子育てで困っている人の力になりたい」という気持ちが膨らみ、保育士を目指すことにしました。

え、学校に通うことにしました。

そこでは保育の勉強だけでなく、グループを作り、一つの題材についてさまざまな意見を出し合ったり取り組むこともしました。一人ひとりの力は小さくても、協力して一つのことに向かえば成し遂げられる経験をしました。また、子育ては親だけではなく地域や専門機関と協力して行うものだということも学び、保護者と子どものため保育士になりたいという私の気持ちと一致し、進んだ道は間違っていないと気づきました。

私が保育士をめざした理由

(ワケ)

商社勤務から保育の世界へ

陽光保育園保育士 天野裕美子



私が保育士の免許を取得したのは、商社の営業事務として働き7年がたったころでした。高校生のころから続けていたさまざまなボランティア活動においてたくさんの子どもたちと接していったことから、児童心理学を学んだら子どもたちの行動をもっと理解してあげられるのではという思いで、仕事をしながら3年かけて保育の専門学校の夜間部に通い、学んだ結果、「保育士」という資格を得ました。

私が保育士になる前は事務の仕事をしていました。もともと子どもが大好きで保育士になりたいという思いはありましたが、手先が不器用だから無理だと考えていました。しかし、通りすがりに泣いている子どもがいると、なんとかしたい」と思い、レストランで大きい声を出している子どもがいて「なんで親は何もしないんだ」と怒っている客がいると、「子育ては大変なんだよ」と教えるうちに私のなかで、「子育てで困っている人の力になりたい」という気持ちが膨らみ、保育士を目指すことにしました。

ていなかっただけだと思いましたが、実際に保育士になると、慣れない仕事で、どうすればいいのか迷うこともあります。しかし私の周りにはベテランの保育士さんたちがいます。めざすところが同じでも、保育の仕方とも考え方もさまざまです。いろいろなやり方があることを知り、日々勉強だと感じています。

毎日多くの子とも接していると、発想が豊かで、やりとりが楽しいです。私は子どもの主体性を育てていきたいので、子どもの気持ちに大事にしています。そのためにもたくさん遊び、その子を知りたい。これからは子どもと大人が一緒に笑って過ごせるように、みんなで助け合って子育てをしていきたいです。

ほうがいかなど、ようやく転職行動に移ったときには、商社に勤務して22年が経っていました。

子どもたちの成長には毎日発見があるように、保育士の仕事もここで終わりという目安がありません。日々生活しているなかで、もっとよい良ものをと子どもたちの笑顔や様子を想像し考えている自分がいます。「できた」「やった」という心からの喜びと笑顔に会える機会がたくさんある子どもたちと接する保育という仕事は、私の生活に潤いをもたらせてくれます。

突然飛び込んだ保育の世界。商社時代と比べると給与は3分の1になりましたが、それよりも何よりも心の優雅さを手に入れて、決心して良かったと改めて思います。

保育園で働きながら資格を取得

北町保育園保育士 小林妙子



約4年前から北町保育園で保育補助として働き始め、当初は子育て経験を活かしながら働き、そのうち保育士の資格が取れたらいいなと、漠然と思っていました。一度は家庭の事情で保育園を離れ、保育士になることを諦めようかと思いましたが、その後、当時の高田園長に声をかけていただき、再び北町保育園に戻ってきました。

強くなり、長女の高校受験に合わせ自主学習を始めました。仕事に子育てに家事もしながらの試験勉強は思うように進まず、悔しい思いもしましたが、保育園の子どもの笑顔と、受験勉強を頑張る娘たちの姿に励まされ、何とか今年の春に念願の保育士資格を取得することができました。とはいえ、まだまだ保育士としては新米です。

保育の仕事の始めたころは、子育てとの違いに戸惑い、どう子どもたちと接していいかわからず、周りの保育士さんたちの見様見真似でやっていました。上手いかな、いいことばかり。そんななか、ただ子どもたちと遊ぶだけでなく、発達に合わせた遊びや接し方を学び、もっと子どもたちのことを理解したい気持ちが

今、虐待をはじめ、保育に対するいろいろな厳しい目もあります。一人でも多くの子ともや保護者の方に「あの保育士さんなら気持ちわかってくれるかな?」「あの人は話してみてもいいかな」と思ってもらえる信頼関係を築き、子どもたちと一緒にたくさん笑って楽しい時間を過ごしていきたいです。

これからも元気な声響かせて

武井亜希子

陽光会に期待すること

北町保育園に子どもたちがお世話になり始め、一番下の子の今年度末の卒園までを考えると、ほぼ10年になります。入園するまでは陽光会のことも知らず、ただ近所の保育園を選んだだけでしたが、リズムや歌、遠くの公園までのお散歩、夏にはプールや水遊びなど、体をよく動かす元気なよい園だなと感じました。

お迎えのときの保育士さんとの会話もホッとすると時です。姉弟で通っていると、弟は、姉のときにはあったイベントの話の話を聞いているので、コロナで同じことをできなかったときは、「ボクのときはなかった」とこぼすこともしばしばでしたが、それだけ保育園でやりたいことがたくさんあるのだなと感じます。

さまざまなイベント等(交流会や兄弟の運動会への参加など)が今後復活するのかわかりませんが、卒園しても遊びにいけるような園であり続けてほしいと願っています。これからも園のそばの緑道を通るとき、子どもたちの元気な歌声や遊ぶ声が聞こえるとうれしいです。

(北町保育園父母の会会長)

私と職場／私の職場

● 陽光保育園 ●

職場は生活の一部

陽光保育園との出会いは実習生のとき。緊張し人見知りする私に「大丈夫！ 人見知りするのならあなたは人見知りする子どもの気持ちが変わるじゃない？」と言われたのをき



0歳児。保育士1人で3人の保育。かわいけれど大変



公園の高～いすべり台。保育士と一緒にさあすべるよ。4歳児

かけに、私はこの職場なら自分が自分らしくいられると、直感で就職を希望したのを覚えています。縁あって、気づけば15年、陽光保育園が私の職場です。

この職場で保育士として働きながら、結婚、出産、今は育児をしながら家と職場を往復する日々です。公

私でいえば、職場は公の部類ですが、私にとって職場は自分の生活の一部、自分が生き生きと生活できる場になっていきます。朝、更衣室で着替えながら我が子の様子を聞いてくれる



移動動物園のモルモットが保育園に。ドキドキしながらそっと手を伸ばす。大好きな担任となら大丈夫。2歳児

仲間、日々の出来事を笑い合える仲間、保育のことだけでなく私個人のことを話せ、支えてくれる仲間がたくさんいて、私的な部分でも日々助けられています。

そしてなんととってもこの職場にはたくさんの子どもの笑顔があります。保育士として「もっとこうしたらいいかな」「〇〇するためはどうしたらいいかな」と悩みは尽きませんが、子どもたちと過ごす日々は何よりも大きな喜びであり、私の大きな糧と

保育園の栄養士として

● 北町保育園 ●

「職場の私」は、栄養士として子どもたちの食事に関わる仕事をしています。一方で「プライベートの私」は、二児の母として子育てに奮闘しています。

保育園で働く栄養士ともなれば、子どものご飯作りも楽勝で、栄養バランスのとれた食事をしていられることでしょうか。実際は冷凍食品やお弁当ですませ、作るのも一品作るだけで精一杯。偏食の我が子に悩まされ、毎日の献立を考えるのも一苦労です。

しかし、自分に子どもが生まれてからその考えがらりと変わりました。仕事に家事に育児に追われるなか、食事をきちんと作ることがこんなに大変だと知



0歳児の食事介助は保育士だけでなく栄養士が入ることも(左) 給食で使うさら豆の皮むきを5歳児がお手伝い(下)



も厳しく、「コンビニや冷凍食品は体に悪い！」「栄養士なら一汁三菜。毎日作ることに」といった指導をたくさん受けてきました。そんな考えが刷り込まれていたので、入職したのころに子どもたちの連絡帳の食事内容を見て驚いた記憶があります。

（北町保育園栄養士 原蓉子）



音階を奏でることができるドレミファキャットという玩具。お迎えの遅くなったお母さんにぜひ曲を聴かせたいと玄関に並べて演奏した男の子。お母さんは、にっこりして

た。けれどそんな自分を変えようと、この仕事に就き、人との触れ合いのなかに身を置いてきました。本当のところ何度となく挫折し、辞めようとしたこともあり。しかし、これだけたくさんの人と深く関われば、自ずと人間のさまざまな側面に気づかれます。人間の冷たい側面だけでなく、共感や交流といった、それまでの自分の人生にはなかった、温かみを感じる瞬間があるので。そしてそれは、このようなたくさんの人と直接関わる職場でなければ感じることはなかったでしょう。

（板十小あいキッズ指導員 宮澤邦人）

● 板十小あいキッズ ●

（陽光保育園保育士 内藤千秋）

楽しい、うれしい、だけでなく、寂しいと感じることや、自分の課題とぶつかり悔しいと感じることもあります。いろんな感情が湧く、自分が自分らしくいられる場所、それが「私の職場」なのかなと。そんなふうに感じられるのは、ありのままの私を認めてくれる陽光会に関わる方々のおかげです。



校庭では暑さのなかでも熱闘が繰り広げられる。おかげでサッカーボールはもうボロボロ。黒の模様はすでになく、今や真っ白

あいきっすの職場は、さまざまな人との生の触れ合いの場です。僕は、人を恐れ、人を憎んで生きてきません。子どもたちからは特に「生きていく」ということを全力で感じさせられます。子どもたちはいつだって全力だからです。そんな全力で生きていく人間が数百名もいる職場で、生き方を学ばずにはいられません。だから、つまり、職場は僕の人生の舞台そのものです。



大学の演劇学科のワークショップにリズムを取り入れる。写真は「トンボのリズム」。みんな楽しそう

陽光保育園の リズムを 研究して

二木凜歌

●リズムは演劇ワークショップに最適
私が陽光保育園を卒園したのはもう15年以上前になる。大学生になり、芸術学部の演劇学科に入学した私は、舞台上立ちながら演劇の勉強に励みながら、時々陽光保育園のリズムを思い出していた。リズムが演劇で用いられる身体ワークシヨップ（以下、WSと表記する）と近い感じがしていたからである。

そこで卒論で、「リズム」の役割と演劇WSとしての可能性について研究することにした。私の幼少期の経験が一体何だったのか知りたいということがきっかけとなり、そこに演劇としてのリズムの可能性の探究が加わったのである。

そこで、日本大学芸術学部の大学1年生を対象として実践研究を行うことにした。幼児と成人では身体構造

上の多少の変更はあったが、陽光で実践されているリズムを冒頭に取り入れた演劇WSを全5回開催したのである。

この実践研究で成人に対しても身体プログラムとしての効果があることが分かった。またそれだけでなくリズムは精神にも大きく影響を与えた。リズムで時間を共有することで参加者のワーク前の精神状態がプラスであってもマイナスであっても、リズムを行った後は比較的ニュートラルな状態になったのである。身体としては疲労度がそろう、精神としては平常の状態になる。演劇WS内では柔軟性や筋力の向上に加え精神の安定の役割を果たしたのだ。演劇WSには最適である。さらに参加者から一番多くもった意見は「楽しい」であった。演劇に限らずリズムも、皆が一体となって楽しいと思っていけることがとても大切な要素だと考える。

私は陽光保育園のリズムの時間が好きだった。もともと体を動かすこと、歌を歌うことに加えて、人前に出ることも好きではあったのだが、リズムをやっている空間そのものを人と共有しているところが好きだったのだと実践研究をして気がついた。演劇と同じように、「空間の共有」というものが「リズム」にはあるのだ。

（陽光保育園卒園）

リズムって？
リズムと音楽は強い結びつきがあります。音楽のリズムに合わせて体を動かしていると、自然と子どもの骨や筋肉、関節、神経系の発達を促し、リズム感を養います。リズムの集団遊びは、一人では味わえない楽しさがあり、仲間のことを考えたり、順番を待ったり社会的性も育んでいきます。

●桜口第一保育園

子どもたちの成長を喜びあう

私は今、1歳と5歳の子どもを育てながら仕事をしています。保育園では時短勤務で、1歳児の子どもたちと楽しく生活しています。

4月は泣いていた新入園の子たちが笑顔を見せ、「いやだ」と主張す



絵本の読み聞かせ。一緒に歌って楽しそう（上）。大好きなパイプシャワーで水遊び（下）。1歳児

るようになってくると安心して過せるようになってきたなとうれしく思い、自分で着脱ができるようになって、友だち同士で遊んでいる姿を見ると成長を感じます。職員同士でその時々の子どもの姿を伝えあい、成長を喜びあえるのが楽しいです。園児にはいやいやされても、おおらかな気持ちで対応したり、他の保育士と相談しながら

保育できますが、家では子どもの気持ちを受け止めようと思いつつイライラしたり、そんな自分に落ち込んだり、うまくいかないことも多いです。子どもが生まれるまでは保護者にお願ひしていた「早寝早起き」や「子どもとの次の日の支度」などが、実は大変なことだということにも気づきました。また、子どもの体調が悪くなり、急に欠勤の電話をするのは心苦しく、家においても仕事のことを気になります。今は子どもとの時間を大事にしようと思ひながら過ごしています。

自分の子育てが落ち着いたら他の職員に「いつでも休んでいいよ。当番代わるからね」と言えるようになるかと思ひます。子育てしているからこそわかる気持ちもあるのですが、保護者の気持ちに寄り添いながら、子どもと話をせる保育士になっていきたいなと思ひています。

（桜口第一保育園保育士 大松里子）

戦争を語り継ぎ、平和を守る

戦争と私

そして未来へ

石巻志保子

私は青森の片田舎で生まれ育ちました。子どものころ、叔父がニューギニアで戦死した話を聞いたことがあります。それほど戦争を身近に感じることなく高校を卒業し上京しました。

就職して20歳になったとき、東京労音サークルに加入しました。そこで板橋で空襲があったことを知りました。戦争当時の話を聞こうと先輩たちと板橋1丁目でスナックを営む戦争体験者を訪ねました。この周辺も焼け野原になりましたが、自宅は奇跡的に焼け残ったそうです。東京大空襲の生々しく悲惨な体験談を聴き、戦争を身近に感じるきっかけとなりました。その後、「原爆の凶」で有名な丸木美術館にも足を運び学習しました。

夏になるといろんなところで戦争に関する催しがあります。24歳のとき、東京労音の「人間をかえせ」（峠三吉の原爆詩集に曲をつけた）の合唱団に関わり、春から練習をはじめ夏に発表しました。その歌を歌っていると、被災した人々の叫び・悲しみ、いろんな感情を肌で感じ背筋がぞっとしました。「広島と長崎に大変なことが起きていたんだ！戦争は嫌だ！」と心の底から恐怖と怒りがわいてきました。

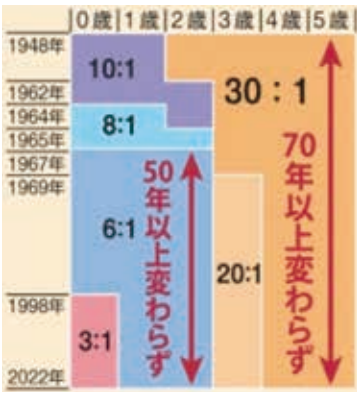
結婚して子どもが生まれ陽光保育園と出会い、今から35年前に知人に勧められて「新婦人しんぶん」を購読するようになりました。その後、20年前に会員になり、本格的に平和について活動するようになりました。現在は新日本婦人の会板橋支部の事務局で働いています。

毎年8月15日に区立大山公園において「板橋不戦のつどい」が開催されています。終戦後、身寄りのなくなった子どもやお年寄り、復員軍人などたくさんの人々が死亡し、大山公園に埋葬されました。かつては、このような戦争犠牲者の霊を慰め、再び戦争による犠牲者をつくらぬ決意を示すために、当公園内に「戦争犠牲者慰霊碑」を建立する運動が取り組まれていたそうです。

戦争体験者の方が高齢になり、語り継ぐことがとても貴重になっています。私たちは戦争の恐ろしさを語り継ぎ、平和を守る責任があると強く感じる今日このごろです。

（卒園保護者／板橋区在住）

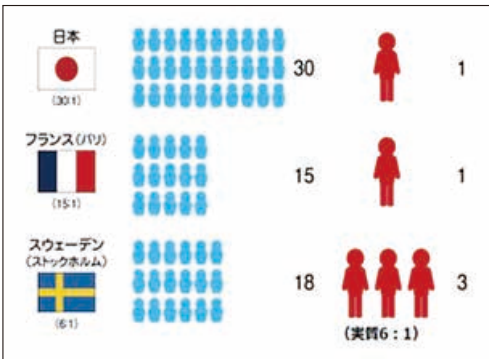
図1 国の定める保育士の配置基準



このうち4・5歳児の基準については70年以上変わらないまま現在に至っています(図1参照)。

世界と比較してみると、いかに日本の保育制度は貧しく、現場で働く職員の頑張りによって支えられている状況であるかがわかります(図2参照)。

図2 4・5歳児の保育士配置基準の国際比較



※図1・図2とも全国保育団体連絡会チラシ(2023)より

0歳児……………2人
1歳児……………3人
2歳児……………5人
3歳児……………10人
4・5歳児……………15人

加えて職員数の算定方法にも問題があります。配置基準は子どもの年齢別でありながら、施設ごとに職員数を合計して小数点以下四捨五入する方法は納得できません。せめて小数点以下繰り上げにする、できれば年齢



別の職員数で計算することが求められます。

国会の質疑では「基準を引き上げるとその基準に見合う保育士を確保する必要が出て、現場に混乱が生じる可能性がある」といった政府の見解が繰り返されてきました。保育士の「確保」が難しくなっているのは、保育士の処遇の悪さにより職場「定着」が進まないためです。保育士資格を持

子どもたちの豊かな育ちと権利を守るために、保育士の配置基準の改善と、さらなる処遇改善を！

低水準の保育士配置基準

国の定める保育士の配置基準は左記のとおりです。

〈保育士1人に対する子ども数〉

- 0歳児……………3人
- 1・2歳児……………6人
- 3歳児……………20人
- 4・5歳児……………30人

2021年末に愛知県で「子どもたちにもう1人保育士を！」実行委員会が発足し、一人ひとりの子どもたちが豊かに過ごす保育を実現させるために保育士の「配置基準改善」を求める活動を始めたところ、テレビや新聞などメディアにも取り上げられ、全国各地の保育者や保護者に連帯が広がりました。

「異次元の少子化対策」に盛り込まれはしたけれど

実際には、子どもの安全を守るために、給与を含めた運営費を抑えても、国の定める保育士の配置基準以上の保育士を雇用しているのが実状です。

この問題は、国会でも取り上げられ、子ども家庭庁発足とあわせて発表された「異次元の少子化対策」のたたき台のなかでも配置基準を改善するという文言が明記されるに至りました。

具体的には、1歳児は6人に1人から5人に1人へ、4・5歳児は30人に1人から25人に1人へ改善するというものです。しかしこの改善は、「最低基準」としての「保育士配置基準の改善」ではなく、配置を改善した施設に運営費を増額する「加算」であって、すべての施設が適用を受けるわけではありません。改めて、すべての年齢について次のような抜本的な配置基準の改善を求めます。

〈保育士1人に対する子ども数〉

ずっとそのままでも、進化にも期待

矢澤 瞳

陽光会に期待すること

我が家には小学校5年、2年、1年生の子どもがいます。5年生の長男は今年5月まで、2年生、1年生の娘2人は今も毎日のようにあいキッズにお世話になっています。そして陽光保育園の卒園児でもあります。そんなお世話になりっぱなしのわが家が「陽光会に期待すること、は、「そのままであってほしい！」ことと、「進化してほしい！」ことです。

子どもの目線で、子どもに寄り添い、子どもの言葉を聞いてくれる先生たちは、子どもにとっても、預けている保護者にとっても安心できる環境です。ずっとそのままであってほしいです。

長い歴史があり、代々年上のお友だちを見てきて、そんなお兄さん、お姉さんになりたい憧れがあると思うのですが、でももっとその年の子どもたちや時代に合わせたカラーを主張して、新しいことにも挑戦してほしいです！

子どもたちを一番近くで見ている先生たちが決めたことが、子どもたちにとっても一番だと思えます。今後とも親子共々お世話になります！ (板橋第十小あいキッズ保護者)

今こそ保育士の処遇改善を

国会の質疑では「基準を引き上げるとその基準に見合う保育士を確保する必要が出て、現場に混乱が生じる可能性がある」といった政府の見解が繰り返されてきました。保育士の「確保」が難しくなっているのは、保育士の処遇の悪さにより職場「定着」が進まないためです。保育士資格を持

ちながら勤務していない「潜在保育士」は有資格者の7割にも上ります。保育士は不足しているのではなく、保育施設で働き続ける保育士が不足しているのです。

抜本的な保育士配置基準の改善とあわせて「さらなる処遇改善」を至急実施する必要があります。子どもたちが必要としているのは、どんな姿の自分も受け止めてもらえるあたたかな保育です。そのためには高度な専門性を有する正規職員が、集団性をもって子どもたちの発達を保障することが必要です。今後3年間で実行される「子ども・子育て支援加速化プラン」のなかで実効性のあるものになるよう声を上げ続けていきたいと思えます。

(陽光会理事 高田礼子)



記念すべき『明日にむかって』第1号
(1987年11月3日発行)

40周年にむけて各種行事を計画、願いはひとつ「子どもたちの健やかな育ち」と謳われている。その願いは今も変わらない。詳しくは陽光会ホームページをご覧くださいと幸甚です

地域新聞『明日にむかって』36年のあゆみ



あゆみ

地域新聞『明日にむかって』第1号が発行されたのは1987(昭和62)年11月。陽光保育園が創立40周年を迎える1989年に向け、みんなで行事や記念誌発行に取り組みましょうと呼びかけるものでした。「明日にむかって」という名称は、もと

もとは創立30周年のときに同名の記念行事を行い、同名の記念誌を発行したのが始まりです。以来、「明日にむかって」は陽光保育園の合言葉のように使われてきました。命名は当時の星野紀園長だったそうです。

それから36年、世の中は大きく変わりました。「明日にむかって」もまたさまざまな変遷を経て現在に至っています。

当初はB4判サイズで、不定期刊だったのが、1992年1月20日発行号から多少の変更はあってもほぼ年3回刊、95年10月26日発行の19号からはA3判の両面印刷が定着してきました。

●100号記念紙を発行するにあたって

編集委員や発行者も、当初の陽光保育園創立40周年記念事業実行委員会編集・発行からいくつの変遷を経て、2010年7月発行の62号からは編集が「明日にむかって」編集委員会、発行は社会福祉法人陽光会となり、現在に至っています。

「地域新聞」と銘打たれているのは、1991年8月10日発行号に題字の上部に初めて「地域とともに」が表記され、それからのことだと思われまふ。以来、地域新聞『明日にむかって』は、陽光会関係者や全国の保育園関係者ばかりでなく、新聞の折込みや職員の手によって地域に配布されてきました。発行部数は当初は不明ですが、90年代以降、5000部、6000部で推移しています。

そしてこの100号記念紙は、いつもとは大きく装いを変え、A4判8頁フルカラーでお届けすることになりました。

陽光会の理念とともに

陽光保育園創立40周年にむけて

刊行の始まった『明日にむかって』。その後、陽光保育園創立50周年(1999年)、園舎建て替え(2005、06年)、陽光会としては板橋第十小学校児童クラブの運営受託(04年度)、陽光保育園創立60周年(09年)と大きな出来事を経て、10年度からは練馬区立北町保育園、16年度からは同桜台第二保育園を運営受託し、陽光会は一挙に大所帯の社会福祉法人になりました。その間に、理事長や園長の交替など大きな人事異動もありました。また、保育制度や

保育行政は大きな変革がいくつもあり、その都度、陽光会はさまざまに立ち向かいながら進んできました。『明日にむかって』は年3回の発行とはいえ、これら大きな出来事を伝え、納得できない保育行政・保育制度についてははっきりと物申す姿勢を貫いてきました。大所帯になってももちろん、陽光会の姿勢や理念は受け継がれ、現在に至っています。

記事

『明日にむかって』のトップ記事は、社会福祉法人陽光会の保育に関わる記事と、保育制度や保育行政に関わる記事に大別されます。周年行事や園長・理事長交替などの報告もありますが、園舎修繕(92、93年)、園舎建て替えなどの際はその報告だけでなく、紙面で寄付を呼びかけ、大勢の方からご協力いただきました。「子どもの発達を考える」と題し

た特集記事は、91年から06年まで15年間にわたり、陽光会の保育に対する姿勢や理念を伝えてきました。大人も子どもともに育つ意味で名付けられた「共育講座」の開催については、01年からその都度報告され、近年は北町保育園や桜台第二保育園でも開催されたことが報告されています。

長年にわたって『明日にむかって』の裏面を飾ってきた囲み記事に「お父さんの出番です!」と「戦争と私」があります。「お父さん」は94年から27年にわたりお父さん(保護者)の声を伝えてきました。「戦争と私」は03年から18年間掲載され、主に戦争体験者の声をお届けしてきました。いずれも時代の変化・潮流により、21年の94号から「お父さん」は「子育て奮闘記」に、「戦争と私」は「戦争と私」そして「未来へ」に名称を変更し、現在も続いています(今号は「子育て奮闘記」は休載させていただきます)。

まだまだご紹介したい記事はたくさんありますが、紙幅に限りがあり、割愛させていただきます。陽光会ホームページ(小紙1頁の題字下にURL掲載)には、途中抜けている号もありますが、第1号から掲載されていますので、興味のある方はぜひのぞいてみてください。

長年、編集に携わって

最後に私事になりますが、1992年7月5日発行の10号から『明日にむかって』の編集・レイアウト・校正に携わらせていただいています。できれば100号まで関わ

らせていただければと思っていたのが現実になりました。振り返ってみると、紙面からはレイアウトの拙さなど、いたらない部分がたくさん伝わってきて、今さらながら赤面します。楽しい保育の記事にはワクワクし、理不尽な制度変更には腹立たしい思いを抱えながら携わってきたことなど、その一つひとつが蘇ります。

我が子が陽光保育園で育ち、育てられ、陽光会の保育に深い共感を抱いていたからこそここまでやってこられたのだと思います。陽光会関係者のみなさま、職員のみならず、ご協力いただいたみなさま、ほんとうにありがとうございます。これからも『明日にむかって』の刊行が続くことを願ってやみません。

(筒井和美)

陽光保育園の一時保育



●月々金曜日の9時〜17時
一日1〜8時間、ご希望の時間帯でご利用できます。
●1歳以上で離乳の完了しているお子さん(板橋区発行「すくすくカード」をご利用できます)。
●保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護などのほか、出産・冠婚葬祭などの緊急時や子育て不安、リフレッシュなどでもご利用できます。

●緊急時以外は、なるべく10日前までにお申し込みください。事前に面接をして、利用日・利用時間を予約していただきます。

●詳しくは陽光保育園までお問い合わせください(受付時間10〜17時)。

☎3956-11068

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2023年度も「砂場遊び」や「リズム遊び」などを中心に公園ではできない遊びを計画しています。親子で気軽に遊びにきてください。

参加ご希望の方は、実施予定日の3日前までにお電話ください（電話 03 - 3956 - 1068）。無料です。

場所：陽光保育園（板橋区大谷口上町 23 - 1）
 時間：午前9時30分～11時（赤ちゃんは10時30分まで）
 対象：0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- *発熱や咳などの風邪症状がある場合は参加をご遠慮ください。
- *天候によって内容を変更することがあります。
- *0歳のお子さんは、室内で、赤ちゃん体操やあやし遊びなどでゆったり過ごします。

2023年度◆今後の予定

7月、8月は終了しました		9月 19日(火)
10月 17日(火)	11月 21日(火)	12月 19日(火)
1月 16日(火)	2月 20日(火)	3月 5日(火)

*9月は看護師が「健康」の相談を受け、11月は栄養士が「食」の相談を受ける予定です。

乳児へ

だれかしら
 作・絵：多田ヒロシ
 文化出版局刊 / 24頁



お誕生日をお祝いしてきた動物たち。とんとんとん、ドアをノックするお友だちはだれかしら？ 窓から顔だけのぞきます。ページをめくった瞬間にあらわれるお誕生日のプレゼントがユニークで楽しい絵本です。



いい おかお
 文：松谷みよこ
 絵：瀬川康男
 童心社刊 / 20頁

登場する動物たちが「いいおかお」を見せてくれ、絵本を見るあかちゃんもマネをして、とってもかわいい「いいおかお」を見せてくれます。読んでいる大人もにっこり優しい気持ちになり、それがあかちゃんの喜びにつながっていきます。はじめての「あかちゃん絵本」にぴったりです。

幼児へ

おおむかし、ある村に、九人のあかんぼうが生まれました。ついた名前が変わっていて九人にそなわった能力をあらわしています。次々無理難題をふっかける王さまに、きょうだいは能力を生かしたちむかい、ついにひどい王さまをやっつけてしまう中国の民話です。何度読んでも飽きません。

作：トミー・アンゲラー
 訳：いませよしとも
 借成社刊 / 38頁



黒いマントに黒い帽子、ちょっぴりあやしいどろぼう三にんぐみ。悪者かと思ってみていると、身寄りのない孤児たちを助けるやさしさに触れます。読み終えたとき心があたたくなり、ほんとうに“すてきな三にんぐみ”に出会えます。

大人へ

かわいそうなぞう



文：つちやゆき
 絵：たけともいちょう
 金の星社刊 / 32頁

戦時中、上野動物園で3頭のゾウが殺されました。ほんとうにあった悲しいお話です。戦争とはどんな悲劇をもたらすのか。人々だけでなく何の罪もない動物まで無残に殺される現実、読んでいて声がつまり涙が止まらなくなります。親子で戦争について考えることのできる大切な絵本です。

100万回死んで、100万回生きたねこのお話。ねこは飼い主なんか嫌い、死ぬのなんて平気。自分のことが大好きだから、誰のねこでもない、のらねこになったことを喜んでいました。ところが、ねこが大好きになった白い猫が死んでしまい、初めて悲しさを知ったねこは、その後もう生き返ることはありませんでした。誰かを想うことの素晴らしさや大切さをこの本は教えてくれます。それは、夫婦でも、親子でも、同じこと。



100万回生きたねこ
 作・絵：佐野洋子
 講談社刊 / 31頁

編集後記

9月といっても残暑さびしい今日このごろ。ようやく『明日にむかって』100号が出来上がりました。100号に向けての第1回編集会議はまだ春先の4月のことでした。100号記念にカラーで、いつもより紙面を増やしてと夢が広がりました。それから3回の編集会議を経て、この形、この内容が決まってきました。それはとても楽しい作業でした。

あらためて36年、この新聞が続いてきたことに驚きを感じるとともに、陽光会職員をはじめ、保護者や卒園関係の皆さま、地域の皆さまとともに紙面を作り、皆さまに支えられて100号を迎えられたことがとてもうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、私たちの仕事として、子どもをとりまく情報を発信し、明日にむかって歩み続けていきたいと思えます。

(編集委員一同)

ごあんない

■板十小あいキッズ

工作遊びフェスティバル
 10月11日(水)

ハロウィン
 10月31日(火)

お楽しみ会
 12月25日(月)

*新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ほとんどの規制が緩和されていますが、第9波の流行の兆しが見えるなど、未だ不安な状況もあります。各行事にお客さまをおよびすることは難しいと考えておりますので、ご了承ください。

■陽光会後援会

交流会 11月12日(日)城北公園
 (後援会は活動再開します。詳細は追ってご案内します)

■陽光保育園

運動会 10月14日(土)

ただじゅん公演 11月7日(火)

共育講座 11月25日(土)

お店やさんごっこ 12月7日(木)

冬のつどい 12月8日(金)

荒馬座ミニ公演 12月13日(水)

■北町保育園

運動会 10月28日(土)

焼き芋会 11月8日(水)

餅つき 12月26日(火)

■桜台第二保育園

荒馬座ミニ公演 9月12日(火)

運動会 10月21日(土)

焼き芋会 11月7日(火)